

地域包括ケアシステム構築 へむけた取組事例

住民参加型の生活支援

～自治体の概要～

興部町 おこっぺちょう（北海道）

●地域概況



北海道の北東部、オホーツク海に面し、明治時代に本格的な開発が進められた町。

酪農業、漁業、林業を主要産業とし、自然の中で飼育された牛からとれる乳製品や毛ガニ・ホタテ・サケなどの海産物が特産品。

●人口 4, 1 1 1 人（平成25年6月末現在）

●高齢化率

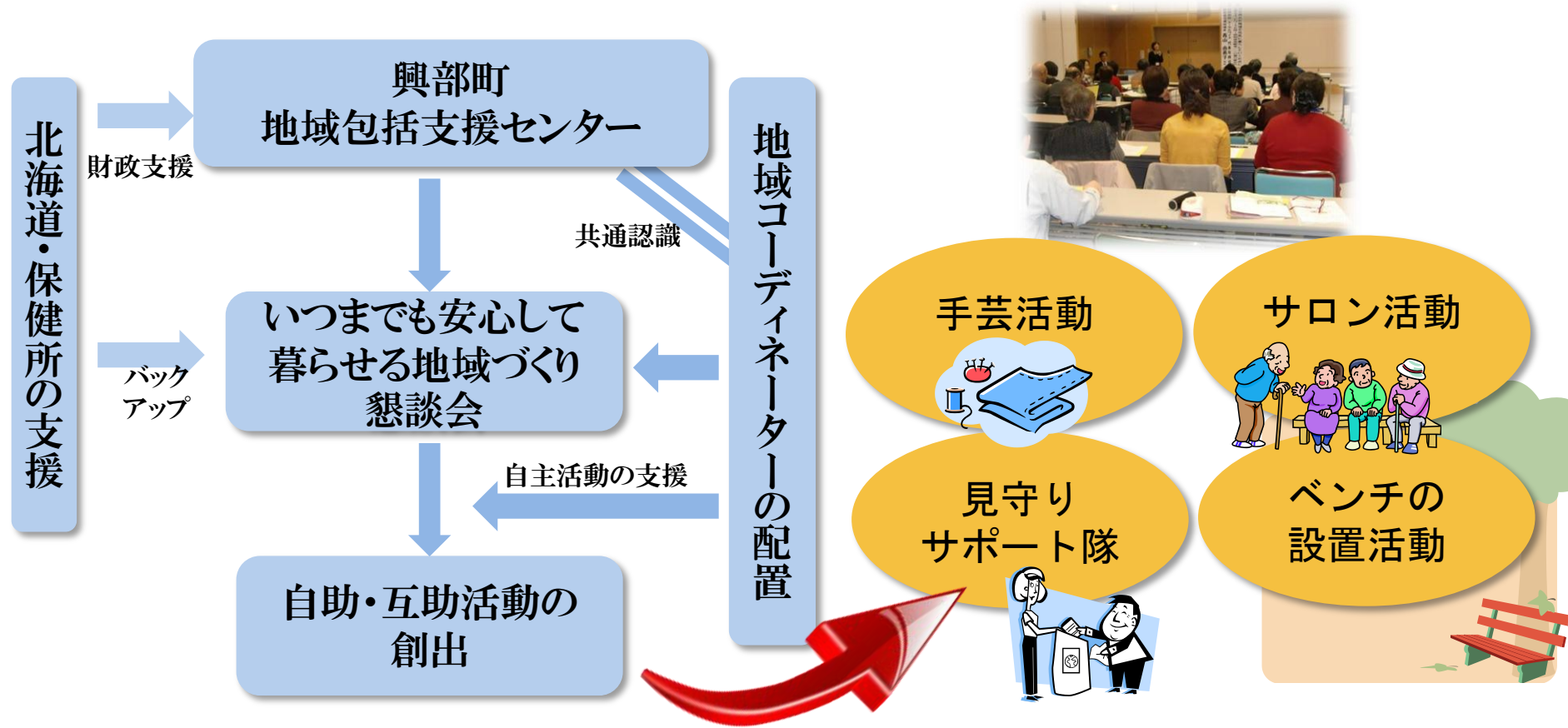
65歳以上 29.6%

75歳以上 15.7%



地域コーディネーターを配置して住民参加型の生活支援を創出（北海道興部町）

- 自治会、民生委員、保健推進員、社会福祉協議会等の関係組織に対し、懇談会の趣旨について事前説明し、地域のキーパーソンとなる人材を地域コーディネーターとして選任（3名）
- 地域コーディネーターの役割
 - ・ 町の現状や方向性を住民と共有し「自分たちでできること、やりたいこと」を議論するためのファシリテーター役となる（平成24年度：4回の懇談会開催）
 - ・ 地域包括支援センターの保健師等と共に、住民ニーズに応じた自主活動の立ち上げを支援
- 懇談会の参加者を中心に、地域づくりサポートの会（32名）が発足し、25年度からグループごとに、高齢者の見守りや居場所づくり等の互助活動を開始



～取組の概要～ 平成24年度より開始

取組の経緯

(背景・地域の課題)

- 平成22年 北海道が地域包括ケアの推進に向けた検討会を開催
- 平成23年 成果物として「安心して暮らせる地域づくりガイドブック」作成
- 興部町の現状
 - ・町内に介護福祉施設がないため在宅サービスを中心に体制を充実させる必要がある。
 - ・保健・福祉関係団体が高齢者の支えあい活動をとおして地域づくりするうえで、お互いの活動を理解し横の連携を図る必要がある。
- 平成24年 北海道の支援を受け、興部町主催による「いつまでも安心して暮らせる地域づくり懇談会」を開催
- 平成25年 32名のサポーターを中心に住民主体による活動を開始

(取組のポイント)

- 地域づくりサポートの会による自主活動
 - ・手芸活動…手縫いの技術を活かした社会参加
 - ・サロン活動…交流の場づくり
 - ・見守りサポート隊…高齢者のゆるやかな見守り
 - ・ベンチの設置…廃材を使って各所にベンチを配置し、高齢者の外出を支援



取組に係る財源

- 住民参加型高齢者生活支援等推進事業補助金 2,800千円（H24年度）

取組に必要なネットワーク

- 自治会、民生委員協議会、自治会福祉委員、保健推進委員、ボランティア団体
- 地域コーディネーター（3名）
- 地域づくりサポートの会（住民有志 32名）

取組の効果

- 懇談会参加者の中から23名の協力員によるチームを編成
- 支援者の顔写真付き紹介冊子『和と輪』を作成し、高齢者の全世帯に配布
- 町民が、町の高齢化と地域づくりは自分達の事として捉え、行政との協働により、高齢者支援の担い手になろうという意識が向上
- 町民自身によって地域の課題が明らかされ、解決に向けた行動が開始

今後の展望

- 高齢者の社会参加や生活の活性化を促進するため、町内巡回バスの運行など、交通手段の確保について検討中